



写真左から) 林田俊彦ものづくりマイスター、受入担当者の青木康将先生、受講者の藤竹亜寿美さん

ものづくりマイスター派遣先



佐賀県立唐津工業高等学校

〒 847-0832 佐賀県唐津市石志中ノ尾 3072
 学校長： 池田 積
 創立・沿革
 昭和 19 年 唐津工業学校として開校
 昭和 23 年 佐賀県立唐津実業高等学校（新制高等学校）となり、商業課程・工業課程・定時制農業課程を設置。
 昭和 37 年 工業科が分離し、「佐賀県立唐津工業高等学校」として独立。
 平成 9 年 建築科を新設
 学 科：機械科、電気科、土木科、建築科
 (H27.7 取材当時)

唐津工業高等学校では、「ものづくり」を通して、技能・技術を習得させるとともに、地域との連携や地域貢献にも積極的に取り組み、行動力あふれる精神と豊かな人間性、健全な良識を持った社会に貢献する人材育成を目標としています。建築科では、技能の基礎固めの一環として、生徒全員が技能検定 3 級を受検することに取り組んでいることから、生徒達のモチベーションは非常に高く、指導をしている職員自ら 1 級技能士を取得するなど、皆が一体となって技能の向上に努めています。今回、職員による通常の指導に加え、高い技能と経験を持つ技能者による指導を取り入れたいと考え、「ものづくりマイスター制度」を活用しました。

期間	10 月～1 月
実施場所	佐賀県立 唐津工業高等学校
受講者数	39 名

「何が分からないか」ではなく「なぜ分からないか」を意識させる

ものづくりマイスター 林田俊彦

早く上達しようと試行錯誤した若手時代の経験が、今に活かしている

昔から教えるのは好きだったので、自分が身に付けたことが、もし誰かの役に立つのであれば、それを教えて、伝承していきたいという思いはありました。また、自分が教える立場になれるように頑張ろうという意気込みもありました。大学時代は電気設備を学び、電気技術者として仕事をした後、家業である大工の道に入りました。

弟子入りのタイミングは、他の職人さんよりも遅かったので、早く周りに追いつこうと、技能の上達方法を自分なりに試行錯誤しながら考え、常に「自分が分からないと感じる理由を追求する」ようにしました。それが、今の指導方法にも活かされていると思います。

「自分がその状況に置かれたらどうするか」を言葉にして教えていく

今回指導を行った生徒のほとんどは、中学を卒業して工業高校に入学したばかりの 1 年生で、大工の経験は全くありません。そのような生徒にゼロから技能を教えることは、私にとっても初めての経験でした。これまで 10 年ほど、職業訓練校などで若手の大工さんに教える経験はありましたが、その時の教え子は、ある程度の実務経験を持っていたので、基本的には「生徒の質問に答え、実際にやってみせる」ことが指導の中心でした。しかし、全く経験のない生徒に対しては、それだけでは不十分です。生徒それぞれの作業の動きを観察し、「多分、ここが分からないのだろうな」という部分を先手を打って見抜き、「なぜ分からないか」「どうすれば解決するか」を言葉にして伝える必要がありました。「教え子がどう考えているか」を推測し、自分がその状況ならどうするかを教えていくようにしました。

「全員で技能検定 3 級合格を目指す」という意気込みに、身が引き締まった

唐津工業高等学校の青木先生の熱意にも、非常に感銘を受けました。青木先生は、生徒に教える技能を高めるため、自らも一級技能士の資格を取得し、常に良い教え方はないか工夫と改良を重ねています。そのよ

うな先生の姿を見ているからか、生徒達も非常に前向きで、全員が一生涯懸命努力をしていました。

唐津工業高等学校の建築科では、基礎力を付けるため、全員が技能検定 3 級を受検するという取り組みを行っていますが、生徒達が自ら「やるからには全員合格しよう」という意気込みで勉強し、互いに分からないことを教えあい、助け合っていました。私も、その思いに応えなければと、身が引き締まる思いがしました。指導では、限られた時間をいかに有効活用するか工夫しました。

重要なポイントは、標語や合言葉を活用して教える

練習の効率を上げられるよう、生徒が作業をする上で重要なポイントについては、「墨だしの三原則」のように標語化しました。こうすることで、ポイントが覚えやすくなりますし、技能検定のような、普段以上に緊張する場でも、落ち着いて作業を進められるようになります。結果として、1 年生全員が技能検定 3 級に合格することができ、私もそれに貢献できたのではないかと思います。



ものづくりマイスター

林田 俊彦 (はやしだ としひこ)

昭和 31 年 1 月 22 日生まれ
 平成 21 年度 1 級技能士 建築大工 (大工工事作業)
 平成 25 年度 厚生労働省ものづくりマイスター (建築大工) 認定

「独自の工夫」と「基礎固め」の 両輪を形づくっていく指導

受入担当者の声

高いレベルの技能に 学習初期で触れることの効果は大きい

唐津工業高等学校の建築科では、技能の基礎固めの一環として、技能検定3級の全員受検に取り組んでいます。元々は、基礎力強化のための放課後補習という形で行ってまいりました。しかし、年々受検希望者が増えたため、指導時間と場所を充実させる必要があり、授業としても組み込むことにしました。そして、授業の内容を充実させるため、高い技能を持つ技能者による指導を取り入れたいと考え、「ものづくりマイスター制度」を活用しました。ものづくりマイスターの来校による指導効果は大きく、特にものづくりマイスターの実演を、どの生徒も生き生きとした表情で見ていることが印象的でした。

「全員で技能検定3級に合格したい」 という生徒たちの思いに応えたい

技能検定3級を受ける生徒たちの中で「やるなら全員で合格しよう」という意識が高まりました。

そこで、教える立場として、その思いに応えられるよう、ものづくりマイスターと共に「限られた時間の中で、いかに学習効率を上げるか」「生徒それぞれで異なる苦手分野をどのように克服させ、全員を同じレベルにまで底上げするか」などの指導方法を徹底的に検討し、授業に反映させました。結果として、受検者の全員合格を達成でき、生徒にとっても素晴らしい成功体験になったと感じています。これは、生徒の思いと、ものづくりマイスターによる的確な指導が組み合わさったからこそ、得られた結果だと思っています。

勉強や練習の先にある ものづくりの本当の楽しさを伝えられる

唐津工業高等学校では、技能検定の受検や数々のコンテストにも応募し、先生と生徒が一丸となって成果を挙げています。それは、生徒にとって学習の道標になり、よい動機付けになります。しかし、ものづくりの本当の楽しさは、多くの資格を取ったり、コンテストで良い成績を取ったりすることだけではなく、自分

の技能が、実際に使われている様を見ることだと思います。現場経験の豊富なものづくりマイスターが指導に加わることで、検定対策にとどまらず、いま練習していることが、実際の現場でどういう形になるかという点まで生徒に伝えることができます。

ものづくりマイスターに負けない指導力を 身につけたい

私自身、指導能力を高めるため、1級技能士の取得や、タブレット（佐賀県は県立高校の生徒全員が購入）を活用した、復習用教材の作成などの工夫をしてきました。今回、ものづくりマイスターの指導を間近で見て、特に勉強になったことは「独自の工夫を促しながらも、必要な部分ではきちんと基礎に立ち戻らせる」指導方法です。その両輪をまわすことで、生徒の技能が高まるのを目の当たりにしました。ものづくりマイスターの指導を受けた後の生徒の表情を見ると、もっと自分の指導力を磨きたいという気持ちを強くさせられます。



写真上) 林田マイスターによる指導の様子
写真下) 青木先生が作成した、復習用オリジナル教材

ものづくりマイスターを見て 「大工を目指す」意思を固めた

受講者の声

皆に慕われる棟梁である祖父を見て 大工を目指した。

私の祖父は大工の棟梁で、弟子に慕われ、目標とされる存在です。私は、その祖父の姿を見て、大工になることを志し、唐津工業高等学校に入学しました。

入学してからは、勉強も実習も多く、難しいことだらけでしたが、私の場合は「祖父のようになりたい」という気持ちが強かったので、特に苦になることはありませんでした。技能検定3級の全員受検ということに関しても、私は「みんなで勉強ができる」とワクワクしました。

林田マイスターの指導を受けると クラス全体の雰囲気明るく前向きになる

技能検定に向けた練習が進む中、クラス内で「やるなら全員合格しよう」という雰囲気が高まりました。

でも、中にはそれをプレッシャーに感じて、焦ってしまう友達もいます。私はそういった友達が気後れすることのないよう、分からないことを皆で話し、教え合えるような楽しい雰囲気を作ろうと心掛けました。

クラスの雰囲気作りという点で、林田マイスターの存在はかなり大きかったです。実際の仕事の話や、目の前で完璧な実技を見て、「やっぱりすごいね」「あんな風に格好良くやりたい」とみんなで話すことで、クラスの雰囲気が明るく前向きになりました。

林田マイスターと先生が、一生懸命に教えてくれる姿に触れることで、みんなが前向きな気持ちで練習に

取り組めたことが、「技能検定3級全員合格」という結果につながったのだと思います。

高い技能だけでなく 人として温かい職人になりたい

私は、祖父の影響で「高い技能と、人としての温かさを両方を備えた職人になりたい」と常に思っています。今回の林田マイスターの指導を受けて、その気持ちももっと強くなりました。そして、「人としての温かさ」は、まずは自分自身が一生懸命にものごとに取り組むことで自然と出てくるものなのだと思います。学校では、技能の練習だけでなく、それを活かして、実際に社会で使えるものを作る機会も多くありますので、そのような活動にも積極的に関わっていきたいです。私は、周りの人や、それを使う人を幸せにできるような大工になりたいと思います。



写真) 受講者の藤竹さん
(地域貢献の取り組みで作成した縁台を手にする)

【地域技能振興コーナー担当者より】

唐津工業高等学校で技能検定に全員が合格されたのは、校長先生や担当教師、生徒が目標を共有し、しっかり取り組まれたことで全員の思いが見事に結実したものであり、やりがいを感じます。「ものづくりマイスター制度」は、目標としていた技能検定に合格したとか、技量が伸び周囲に技能研鑽の刺激を与えるなど副次的な効果もあった、など評価を受けています。職業系高校や事業所でこういう意識が浸透し、次代を担う技能者が巣立ち、育成されるよう今後とも頑張ります。

カリキュラム

	指導日	指導内容
1	10/28	基礎編：図面の説明、材料・工具の準備確認
2	11/11	基本編：材料・工具の準備確認 材料の見方、各部墨付け作業
3	12/2	基本編：材料の見方、工具の使い方 各部墨付け作業
4	12/10	基本編：各部墨付け作業、ほぞ・ほぞ穴加工
5	12/12	基本編：各部墨付け作業、ほぞ・ほぞ穴の 寸法精度内の加工、部材加工・組立
6	12/17	応用編：ほぞ、ほぞ穴の寸法精度内の加工 部材の加工・組立
7	12/24	応用編：部材の加工・組立 時間、精度の安定化
8	1/7	応用編：各加工についての確認 実習成果の講評、アンケート実施